

事務事業マネジメントシート(平成30年度実績と平成31年度計画)

令和 2 年 2 月 21 日 更新

事務事業名		繁殖牛導入資金助成金事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	6	産業の健康			所属部	産業振興部	課長名	塚本 健洋
	施 策	26	農業の振興			所属課	農政課	担当者名	青木 克憲
	施策の柱	69	生産基盤の確保と経営力の強化			所属班	農政班	(内線)	5223
予算科目		会計一般	款 6	項 1	目 11	事業連番 10289	根拠法令		
終了、開始年度		☐ 30年度で終了 ☐ 30年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	肉用牛優良繁殖雌牛を導入することにより、本市肉用牛改良を推進し、生産基盤の確立と肉用牛経営の安定及び活性化を図るもの。事業の内容は、畜産頭数の維持・増頭及び畜産農家の廃業対策として、繁殖用の育成牛、成牛等の優良な家畜導入に要する経費に対して1頭につき2万円の補助を行うもの。
【業務の流れ】	計画承認申請書→補助金の内示→補助金交付申請書→補助金交付決定→補助金支払い→実績報告→現地確認→補助金交付確定
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金
【意見や要望】	畜産農家から継続してほしいとの要望がある。 また、菊池市が予算の範囲内で上限5万円の助成を行っていることから、助成金額増額の要望がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 30年度実績(30年度に行った主な活動) (DO)		31年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
繁殖牛を導入した農家に対して補助金を交付する。 【基準に達しなかった理由】 申請件数が、見込みよりも少なかったため。		繁殖牛を導入した農家に対して補助金を交付する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由
→ ア 支払件数		繁殖牛導入資金助成金の減
→ イ		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
畜産農家		→ ア 繁殖牛を導入した農家数
		→ イ
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
経営の安定が図られる。		→ ア 繁殖牛を導入した頭数
		→ イ
*③成果指標設定の理由と31年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
多くの優良繁殖牛を導入してもらうため成果指標を「繁殖牛を導入した頭数」とした。目標値については、過去3年間の実績に基づき45頭とした。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	28年度 実績(決算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	30年度 実績(決算)	31年度 目標(当初予算)	2年度 予定	3年度 見込	4年度 見込
① 活動指標	ア 件		32	23	40	18	45	45	45	45
	イ									
② 対象指標	ア 戸		12	8	10	9	10	10	10	10
	イ									
③ 成果指標	ア 頭		32	23	45	18	45	45	45	45
	イ									
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	640	460	800	360	640	640	640
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	640	460	800	360	640	640	640
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち臨時職員	千円	0	0	0	0	0	0	0
人 件 費	正 規 職 員 従 事 人 数	正 規 職 員 従 事 人 数	人	2	3	1	2	1	1	0
		延べ業務時間	時間	106	115	50	15	0	0	0
	(B) 人件費計	(B) 人件費計	千円	0	454	199	59	0	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	640	914	999	419	640	640	640

事務事業名	繁殖牛導入資金助成金事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は30年度の後評価、ただし複数年度事業は30年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①30年度目標達成度評価	☐ 達成した 申請件数が、見込みよりも少なかったため。 ☒ 達成しなかった ⇒【原因】
	②31年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 肥育と繁殖牛の育成を一貫経営として所得の安定を図りたい。 経営が安定することで、事業拡大が期待される。 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 飼料価格の高騰等厳しい情勢ではあるが、一貫経営を行うことで所得の安定が期待できる。 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 11499畜産振興事業の目的と同じであるため統合可能。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 肥育経営や酪農経営との補助についてのバランスの検討を要する。 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 必要最低限の人員で対応しているため削減はできない。 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 農業の振興は市の重点事業としているため、導入費の一部を補助することは適正である。 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 農業の振興は市の重点施策であるため適正である。 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（CHECK）

申請件数が減少傾向にある。今後菊池地域農業協同組合、畜産農業協同組合と連携し、補助活用を推進する必要あり。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）					(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
		コスト																												
		削減	維持	増加																										
成果	向上																													
	維持	○																												
	低下																													
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																														